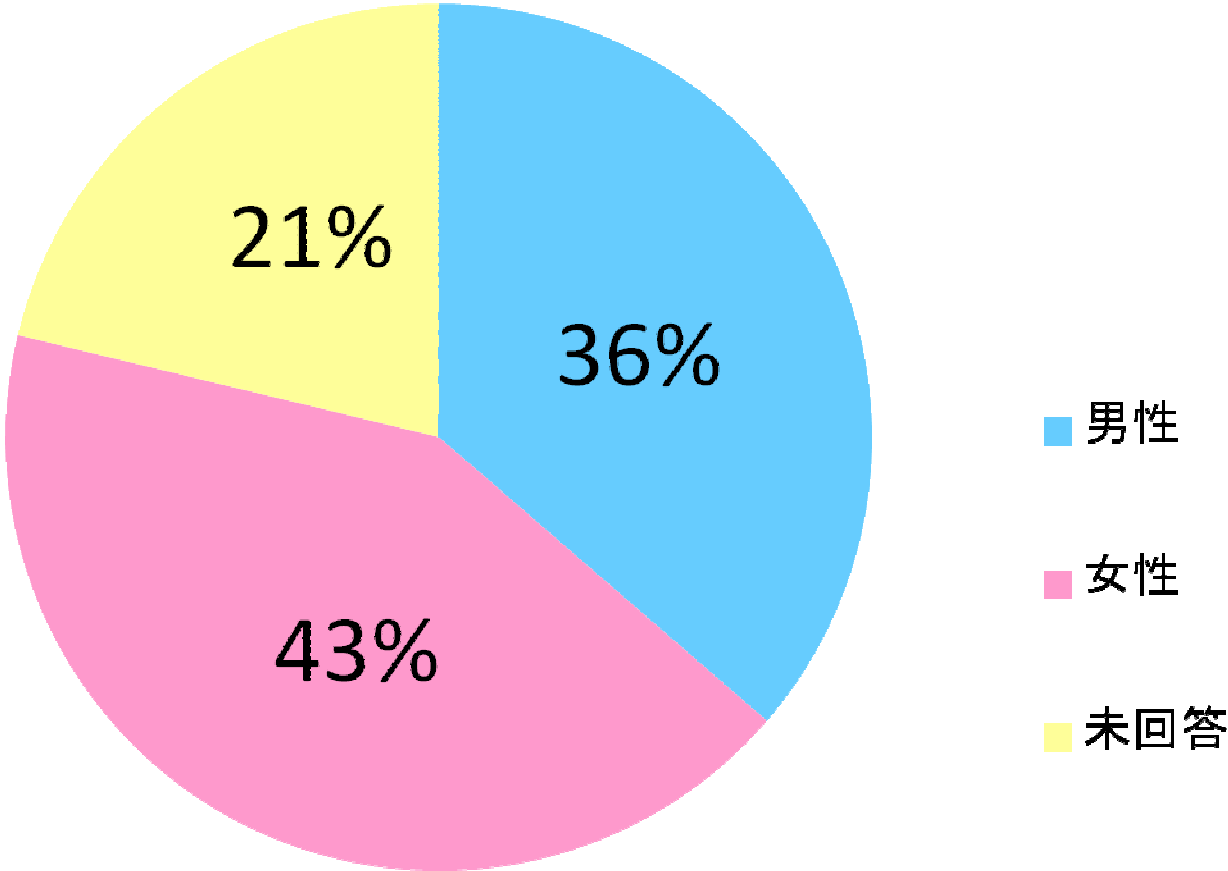
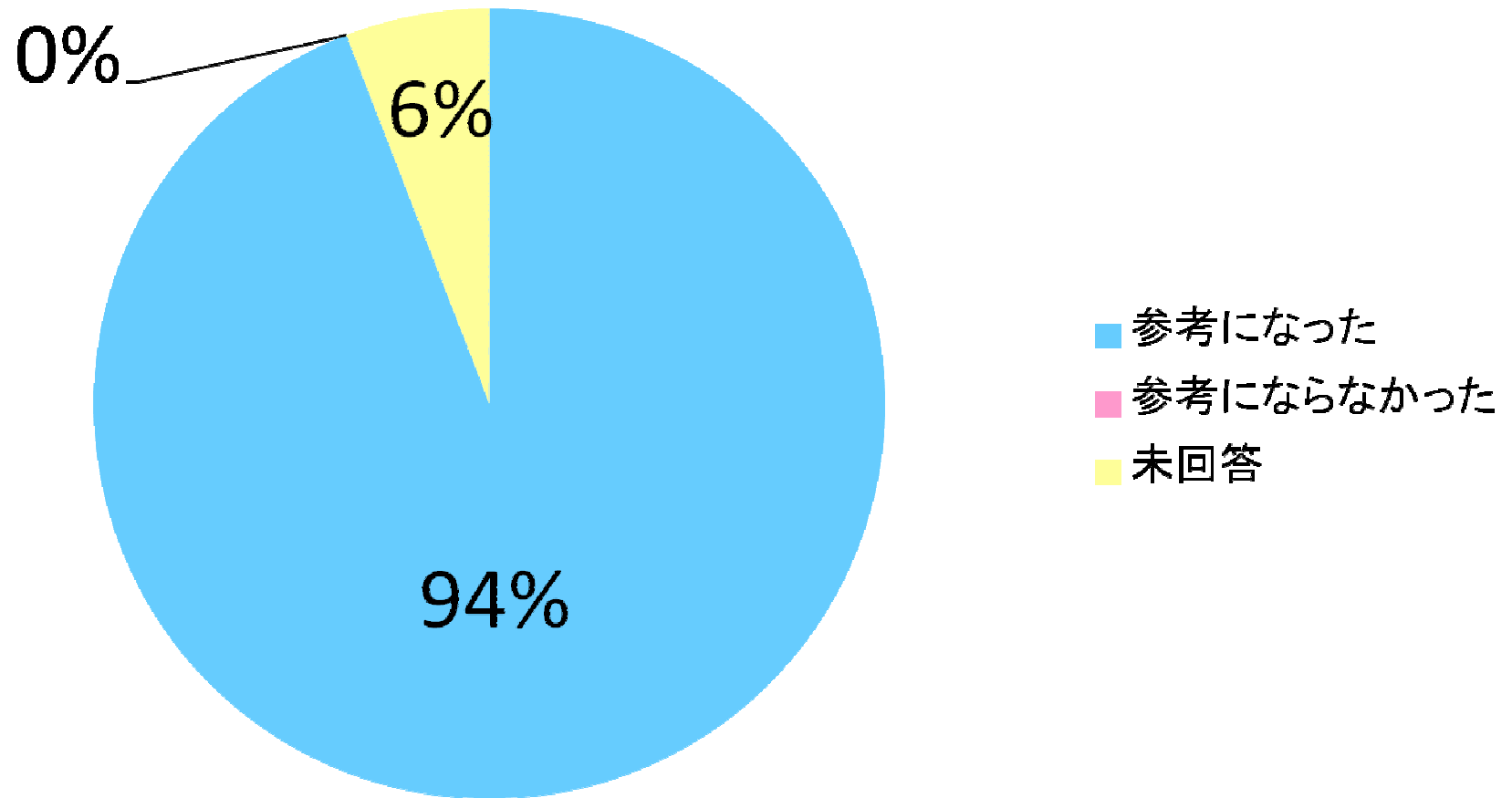


# 第4回 健康と環境フォーラム アンケート 結果

回答率: 44%



1. フォーラム全体について  
(1) 本フォーラムの内容について



## 1. (1)の具体的な理由(その1)

- ・ 報道では分からない被災現場の様子、被災者の様子、それを支援した方々について知れた。
- ・ 2011. 3. 11の東日本大震災を取り上げた内容であり、丸1年経ち、日本人の教訓として今回取り上げられるのは良いことであり、かつ「健康と環境」というテーマも、今の日本人にとって東日本大震災を背景にもっとも関心のある内容であると思う。
- ・ 自分自身は九州に居ることから震災に関して他人事の様な感じをもっていた。今回の講演で少しでも被災地の方々の立場に近づく事ができた。
- ・ 毎回、お話としては興味深いものであります。
- ・ 心のケアについて。
- ・ 震災から1年たったが今まで聞いた事ない視点からの話はなしを大変ためになった。
- ・ 生の声が見えた。
- ・ グリーフケアという深い悲しみからの立ち直りのステップを知った事。
- ・ とても興味深い内容で非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。特にヘルスケアカウンセラーとして活躍されている石井苗子さんのお話は自分の持っている資格ともからんだもので、大変勉強になりました。実際に震災のあった場所で活動した生の声がきけたことは、今後の自分の“やれること”について考える上で、とても参考になりました。
- ・ 東日本大震災について参考になった。本件は聞けば聞くほど発見があるもので、今回も非常にリアリティーのあるお話でした。

## 1. (1)の具体的な理由(その2)

- ・ 宮さんのご報告は、報道されているものと一風違った視点で良かった。
- ・ 良い活動だと思います。
- ・ 体験者の活動が長時間聞けた。TV、ラジオ、新聞等は短いし簡単すぎる。
- ・ 普段なかなか聞けない話などを聞けて、見れて、すごく勉強になりました。
- ・ 東日本大震災に結びついた健康と環境についてのお話を伺うことができ、震災について再度見直す機会を頂けたとともに、これからの健康と環境を考える機会を頂きました。
- ・ 自然と共存していくという復興の仕方に心を打たれました。電気をつくる為に水を利用する。水害を防ぐ為に森という自然を使う、地形を使う事などが今後考えていくべきであると思う。
- ・ 普段はなかなか聞くことのできない専門家のお話を聞くことができた。
- ・ タイトルやテーマだけではわからなかった主旨や活動内容、今まで知らなかった具体的な活動について勉強になりました。
- ・ 震災に関して知らなかったことをたくさん学ぶことができた。とても貴重な機会になりました。ありがとうございました。
- ・ 震災についてより深く具体的に考えるきっかけになった。
- ・ 震災を環境という新たな切り口からとらえることができた。

## 1. (1)の具体的な理由(その3)

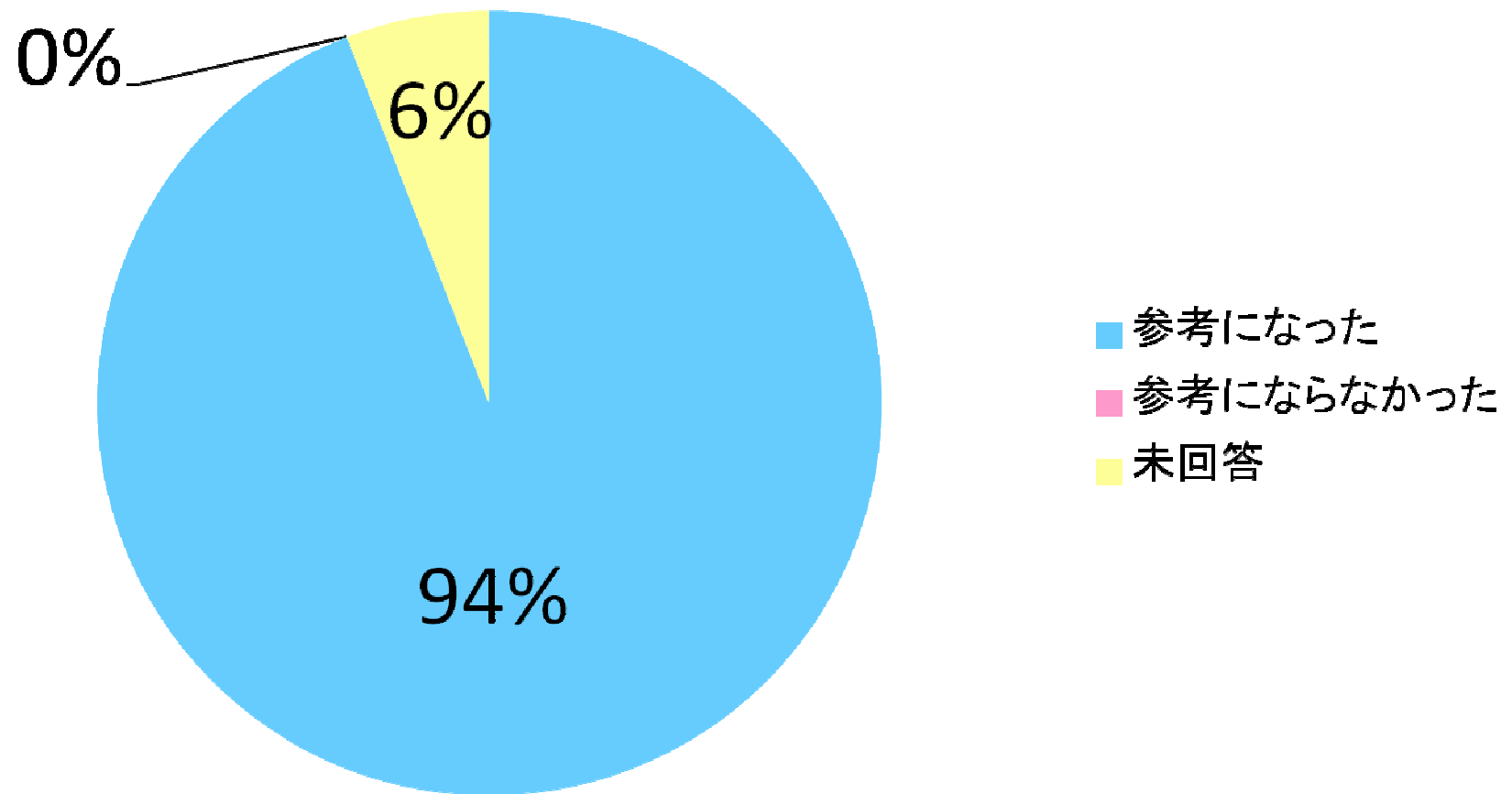
- ・ 講師の方々の勇気ある行動には感動しました。自分の1回ボランティアに行っただけで、支援していたつもりだったが、また行ってボランティアしたいと思った。
- ・ 実際に現地に赴かれた方のお話は大変に説得力がありました。マニュアル通りではない物事の中で機動的な判断が必要とされたことが伝わりました。山の神と海の神の話には驚かされました。
- ・ 3/12がこれからの再生、復興のスタート。昨日、TVでの検証番組を観た後に今日のフォーラムの意義があると思いました。
- ・ この一年、様々なメディアを通じて震災の痛みを知ったつもりになってしまっていました。御二方のお話は実体験をもとにしたものであり、とても参考になりました。
- ・ これだけの貴重な講演を無料で聞けるとは。今後自分の身に起きるかもしれないテーマなので、もっと多くの人に聞いて欲しかった。(お土産までもらえるとは思わなかったのが嬉しかった)

## 1. (2) その他フォーラムについての意見

- ・ “健康”と“環境”は、人間生活において切っても切り離せない永遠のテーマに思えます。今後もますますの活動の拡大を期待しています。もっと一般にむけて発信してほしいと思います。
- ・ 防災関係の仕事をしている関係で何か役立つことがあればと思いました。
- ・ アンケートは具体的な方が応えやすいと思います。
- ・ 3月11日、極めてタイムリーのテーマと感じました。もう少し多くの方に聴かせたい話でした。
- ・ 今後もタイムリーかつ未来への指針となるような内容を期待したいです。
- ・ 安住度の高い環境作りと課題。
- ・ 私は、建築関係に携わっていますが、今回の地震、また今後起こりうる自然災害に対して、建築という分野がまだまだできる事が多くあるということ、自然的材料、化学的材料の共存も必要であるという事を考えるよい機会になりました。
- ・ ホールの雰囲気も良く、また講演の方々のお話のしかたもとても感じよかったです。
- ・ 第1部、第2部に共通することですが、個人的には簡単なレジュメがあると嬉しかったです。

## 2. 内容について

### (1) 第1部(講演1)の内容について



## 2. (1)の具体的な理由(その1)

- ・ 震災発生から今日、そして今後までをストーリー立てて説明いただき理解しやすかった。また、復興(第4章)において5W4Hの法則について説明いただき混乱時であっても、もちろん平時であっても、基本に沿って物事をすすめることが大事なのだと改めて感じた。
- ・ 現状と今後何をやるべきかが少し整理できた。今後関東でも可能性があることから、今何をすべきか考えてみたい。
- ・ 放射能との関係性をもう少し聞きたかった。
- ・ 鳥居の位置など。
- ・ 震災直後の大変さがうかがえた。
- ・ 大変良かった。
- ・ 復興への具体的な取り組みが昔の地形を知ることでなされている点。
- ・ 実は、自分の故郷の高知県も、昔から数十年～百数十年周期で大きな地震と津波に襲われています。沿岸部には、数多くの石碑があり、地震や津波のことを後世に残そうという先人の知恵が残されているのですが、現在、あまり見直されていないのが現状です。今回の講演で、先人の知恵をいかしつつ、復興していくという視点はとても参考になりました。
- ・ 写真、特に被災地に行かれた方の個人的写真を見せていただき、また話を聞くことができ、参考になった。
- ・ 私たちは、通常NHK、民放の番組を作っています。但し、ちょっと視点を変えて専門家の視点、環境(先住民)の視点で震災をとらえると違う姿が現れるのが新鮮でした。



## 2. (1)の具体的な理由(その2)

- ・ 人類の歴史と体験から密着した土地利用、地形、施設の話に関心を持ちました。現在の技術では思いつかない事を聞かれ参考になりました。
- ・ 行動の人、宮先生の言葉は重いです。
- ・ 宮先生の活動は“まず現場ありき”というのがすばらしいと思った。アーティストだから音楽で支援するというのではなく、現地に入って何が必要かをまず活動されてから、専門分野での復興支援というのは正しいやり方だと思う。そして先人の知恵をもっともっと後世に伝えるべきだと感じた。
- ・ 1. 災害、復興のステップについては、被災者及び復興者の共有が必要。2. 先住民の住居地。
- ・ 震災の話で、実際に被災地に行った方の話を聞いたのは初めてだったので、すごくリアルでテレビの報道とはまた違った視点での話や写真だったのですごく参考、勉強になりました。
- ・ 実際に震災直後に現場を視察され、現地の先人の知恵という観点からアプローチをされただけでなく、ポーランドの魔女の知恵といた日本だけではないグローバルな視野からの先人の知恵についてお話を伺うことができ、大変感銘を受けました。
- ・ やはり自然には逆らわないというか、自然に沿って生きることと、そうしてきた人は強いな、と思いました。
- ・ 永住型仮設住宅について、一生を暮らす住宅とは個々に求める物は違うが、まずは一生住めるという安心の家を手にしてから、長い時間をかけて自分達の求めるものに変えていく、新しくつくるという事が大切であると感じました。
- ・ 実際に現地に足を運んだ方の証言だったので、(とても生々しい部分も含め)環境学や立地の視点からの復旧の話は興味深かったです。

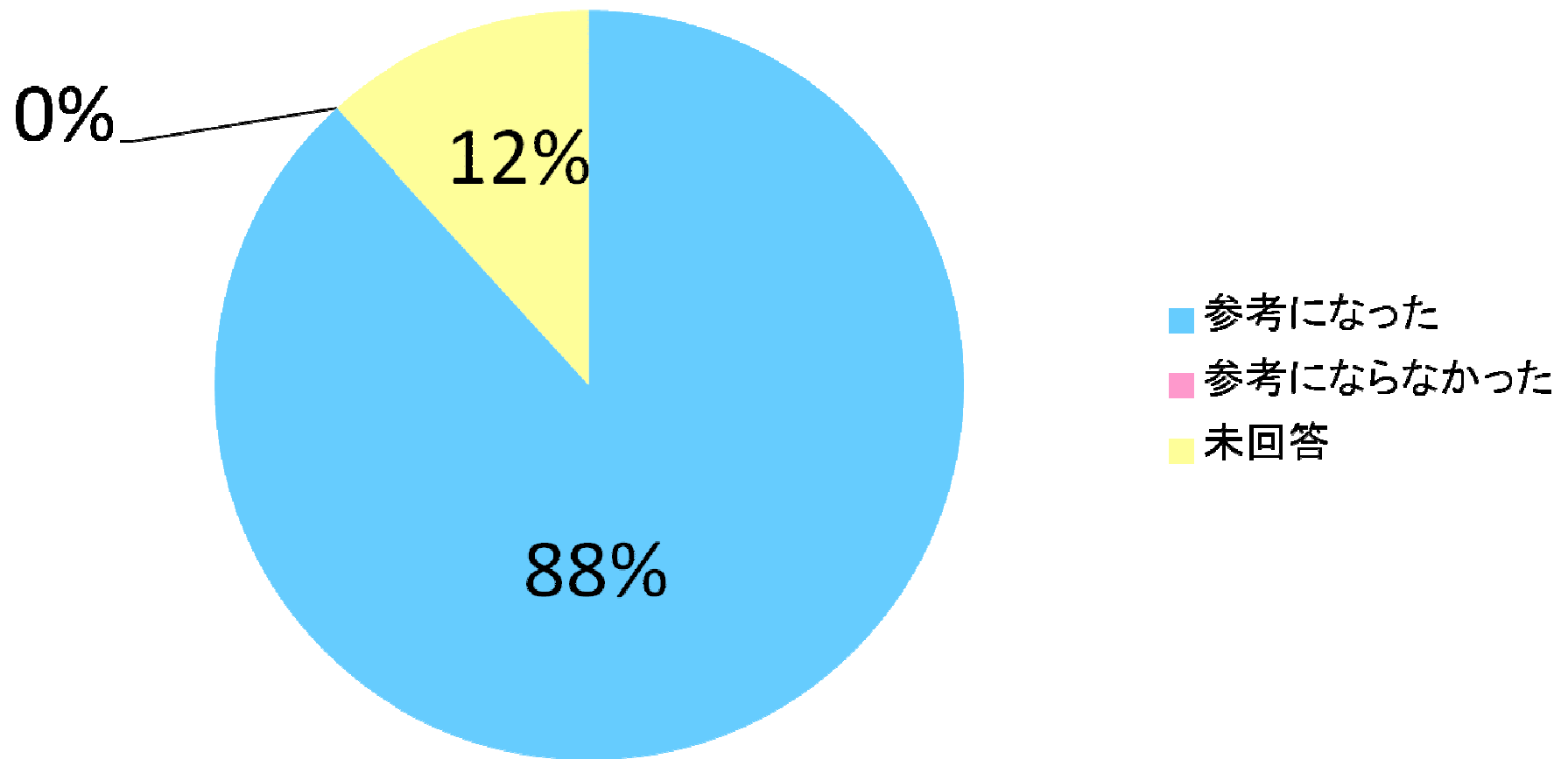
## 2. (1)の具体的な理由(その3)

- ・ 抗生物質のかなりの必要性におどろいた(自分自身は抗生物質が苦手なので)。でも考えてみたら感染症を防ぐには当然だと思いました。
- ・ 被災地の生の様子を写真と実体験なされた方の話から伺うことができ、胸を打たれました。昔からの地形を活かした復興というアイデアが斬新で勉強になりました。
- ・ “先地形にならう”。この週末震災報道を見て私も考えていました。それが具体的に言葉になった感じで共感できました。
- ・ 写真を多く見せていただけてわかりやすかった。他の報道では見ない写真、トピックス、考え方があり興味深かった。
- ・ 現地の実情がすごく分かった。昨日で1年過ぎた震災の現実や被害を忘れない様に心がけたい。自衛隊の方々の活躍にも感謝したい。
- ・ 被災にあった時1. 屈強な人、2. 抗生物質、3. ガソリン、4. バイク、5. 水。自分も被災地に行った時、正にそう思いました。
- ・ 写真などを織り交ぜながら、講義形式で進行していただいたので、話が分かり易かったです。神の境界線の話には興味がわきました。
- ・ この国のカタチ。山河にあると気づかせていただきました。
- ・ 写真やスライドとともに現地の状況を御説明いただき、まだまだ復興には時間がかかるのだと再認識しました。

## 2. (2) 第1部(講演1)についての意見

- ・「現地の声」がいかに大切かがよく分かった。報道内容や想定ではなく、生の現地の声を聴くことがBestだという内容のお話があり、自分で見て、聞いて、感じることで間違いが少なく、かつ信頼関係の構築につながり、その後のフローに大きく影響していると感じた。
- ・もう少し先生の話を知りたいと思った。
- ・今後の活動の報告も聞いてみたい。
- ・今回の災害についての東欧の方の見方、考え方が興味深かった。
- ・一定の時点で経過を知りたい。
- ・最も危険な地域と言われながら、なぜ大災害が起きたか！の検証、推定、創造不足がわかったように思う。温暖化による海水の上昇圧力についての関係はないのか。
- ・自然の地形に合わせた街づくりは大変参考になりました。古地図を利用して、街の地形をしっかりと理解すべきであると感じました。また今回の津波により地震力だけではなく、津波(水力)に対する建築の在り方を考えるべきであると思いました。RC造、S造ではなく森林、自然を利用すべきであると思いました。
- ・スライドの切り替えはご本人がされた方がよかったかも。
- ・被災県ネットワークで行う復興、5W4H法による評価に関して、今後の動きが気になります。

2. 内容について  
(3) 第2部(講演2)の内容について



## 2. (3)の具体的な理由(その1)

- ・ 震災時において体へのケアと同時に心のケアをしなくてはならない事etc.グリーフケアについて。
- ・ 震災に限らず、人の心をケアすることは非常に大事なことであり、グリーフの8項目は印象的だった。難しいとは思いますが、自分の意識の中にとどめておこうと思う。
- ・ ヘルスケアカウンセラーの役割の大きさが理解できた。
- ・ とても興味深い話でした。
- ・ 心のケアの大切さを知った。
- ・ 震災から学んだ事をいかし、社会の仕組み制度をかえる所からはじめなければいけないのかもしれないかもしれません。
- ・ 自分もカウンセラー資格を持っているので、ヘルスケアカウンセラーとしての石井さんの活動やお仕事の内容をとっても興味深く聞かせていただきました。また震災でのいろいろな活動もとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 心の病気になるきっかけと、その8つの局面は参考になった(勉強になりました)。
- ・ お話は面白かったがパワーポイントなどを使って説明頂いた方が90分という時間を有意義に使えたのではないか。
- ・ 国、現地、支援者のミスマッチ。ボランティアの仕組みづくりの苦労談。

## 2. (3)の具体的な理由(その2)

- ・ 双葉町から東京に避難している女性のサポートをしてきました。住まいも仕事も決まり、日常の生活に不自由はなくなった今、もうできることはないのかと思っていたところでした。これからは、心のケア。できるだけ会いに行き、話をし、心の奥の痛み、グリーフを分かち合うことを続けていきたいと思っています。
- ・ ヘルスケアカウンセラーという仕事を初めて知りました。とても大切な仕事だと思います。
- ・ 石井さんの話は非常にわかりやすかった。震災時の医療や心のケアの話をじっくり聞いたのは初めてだったのでためになった。支援する人でさえ3日もたない所で被災者の人たちはくらしているという話は胸にずっとしりときた。
- ・ マスコミ情報では聞けなかった情報が多く有り参考となった。
- ・ 女優でヘルスケアカウンセラーで様々な活躍をしている女性はやはりカッコイイですし、品もあって医療の話も深くて良かったです。
- ・ 自助、共助、公助という区別からくる具体的な支援の難しさと、震災による直接的な身体へのケアと、環境の変化による間接的な心のケアの相違、難しさについて伺うことができたこと、また、心のケアについて普段の生活においても活用できるような、体系的なお話を伺うことができ、大変参考になりました。グリーフケア&モーニング、大変参考になりました。
- ・ 外科は部位(臓器)ごとにプロがいるが、心にはない、というのが、確かに、と思いました。痛みは人によって違うから、というのが、そうだよな、人のことを比べたりしてはいけないな、と思った。
- ・ 心をケアをするという難しさとともに言葉使い等を変える事によって状況を変えられるという事がとても印象に残りました。公助、共助、自助という事、公が支援する事の難しさ、対応できない矛盾がある事がとてもショックでした。
- ・ 生き残った者の悲しみ。グリーフケアの講話は大変よくわかりました。

## 2. (3)の具体的な理由(その3)

- ・心のケアは身体のケアと同時に緊急にはじめなければいけないもので、且つ長期的に続けていかなければならないものである、と改めて学びました。グリーンケアの大切さ。
- ・被災した現地と、外から助けに行く人たちとの意識のちがいや混乱を避けるための公正、またプライドを保つための公正、共助、自助、公助の在り方、緊急医療支援における心のケアの重要性、いろいろ頭でわかっていることではありましたが、具体的にお話が伺えてとても勉強になりました。
- ・グリーンケアという言葉とその内容について勉強になりました。友人で被災者がいるので、接し方を気をつけたいと思いました。
- ・緊急時の被災者のニーズと行政の規則の矛盾について全く知らなかった。規則は大切だがフレキシブルな対応も行政主導でボランティアとともにできれば、さらに効率良く有意義な力にできたのではないかと感じた。
- ・避難所での行政と現実とのギャップなど、TV、その他では聞けないリアルなお話がきけてよかった。“人の悲しみにルールがあってはならない”という言葉が印象に残りました。
- ・ヘルスケアカウンセラーという肩書を初めて知った。ただ単に病気を治す、治療するだけでなく、心のケアからケアしてくれるのはとても頼もしいと思います。心のケアもとても大切なのだと改めて思いました。行政の怠慢な行動にはガッカリしました。
- ・医療面でのミスマッチ(後方支援のみに従事して欲しいという依頼があったこと)に関しては、短期的な視点での判断と長期的な視点での判断が複雑にからみ合っていると感じました。“公”が機動的に動けないのも前例主義に依るものなのだろうと感じる一方で、自分に置き換えると、そのようにしている面もあると痛感しました。これからは活かしていきたいと思います。
- ・最も印象に残ったのは支援のミスマッチの実情でした。支援する側が支援したいものを送り満足してしまっているが、実際の現場とのミスマッチにより、結局支援物資がいきわたらないということを知りました。また、医療の面から見た被災地の実情というのは今までに聞く機会がなかったため、とても参考になりました。

## 2. (4) 第2部(講演2)についての意見

- ・心のケアの大切さを知るきっかけになりました。
- ・長い時間でしたがすぐに終わりになっていました。
- ・欲を言うと心のケアの立場で私たちができることをきかせていただきたかったです。
- ・東日本大震災についての裏話。いろいろな方から聞く機会があるが、やはりリアリティーあふれる話は、メディアからはなかなか伝達されないのが貴重である。
- ・行政の型式ばったルールのせいで、たくさんの善意が無くなった事実を知りました。“共助”の本意を改めて考え、ルール改正を早急に！これからのこの国に度々おとずれるであろう災害にそなえて。
- ・glief careについての話は興味深かった。
- ・女優という華やかな世界から40歳すぎて看護師を目指した石井さん自身の生き方にも興味をもちました。
- ・災害時にリーダーシップを取り、全体の把握を行い、指示を出せる人物が必要であるという事を実感しました。喪失感にある8つの感情について大変興味深かったです。
- ・第1部と共に薬の重要性。グリーンワーク、モーニング、苦しい、厳しいルールで縛らない事。
- ・非常に興味深い話だったのですが、視覚的にも分かるように講演していただきたかったです。



## 2. (5) 未来に残したい東日本大震災に関する事項(その1)

- ・被災した人たちの心のケアを考えた時に我々ができる事は何なのか。
- ・震災後のシステムが自動的に更新したわけでもなく一人ひとりの気持ちの中になる思いを少しずつ行動にしていきたいです。
- ・原発について。
- ・わすれる事のない様に話し続けて行きたい。
- ・復興とはやはり自立だと思えます。ボランティアを阪神大震災の時にしました。ボランティアが徐々に居なくなり、地元の方だけでどう暮らしていけるか、それを実現することが最も重要だと思えます。
- ・復興の成果。古きを残し、未来を共生させた街づくり。単なる近代的でないもの。
- ・日本に住んでいる以上、必ず災害はおとずれる。つねに高い防災意識を忘れずに。
- ・他人を思いやる心。
- ・種々の災害の発生確率情報の提供、並びに対応策(案)の提供を学校教育を始め一般の人に伝えることの重要、大切さ。
- ・災害のつらいこと、記憶を残したいとは思わないけれど、人が人のために一生懸命になる、助けようと思うことは残したいというか覚えていたいと思う。
- ・人間は自然には敵わないと痛感したので、防災よりも減災の方が重要な気がしてきた。

## 2. (5) 未来に残したい東日本大震災に関する事項(その2)

- ・ 1. 都市、街づくりのあり方。(自然的地形、自然と共存できるとはどういう事であるのか?) 2. 仮設住宅の建設のあり方。なるべく早く対応するという事と同時に永住ということも頭に入れておくということ。3. 現地が求める事とマッチさせる事。現地の方々(将来的に自分自身はその側に立つ可能性があるという意識)が本当に何を求めているのか? 国、公的組織と被災地、ボランティア、民間との連携をスムーズにする対策の在り方。
- ・ 第1部でも出ていた“雨がこわい”ということ。また計画停電の遅れや不備など、その他、政府の対応や動きがかなり遅れてしまって不安やウソの情報が多かったこと。逆に計画停電が始まった時にはやっと政府が機能し始めたとホっとしました。
- ・ 1. 津波に対する正しい知識と対応。2. 間違った認識の是正。3. 生き残った人の心身のケアがいかに大切か。4. 被災地で本当に必要な支援、物資は何か。
- ・ 近所、あるいはたまたまその場に居合わせた人たちがどのように連携して助け合うか。そのノウハウなどあれば。
- ・ 震災の悲惨さを忘れないでいようと思う。
- ・ 神が大事。学校でボランティアの時間をもっと作るべき。5,000億円集まったのも日本人の外国への対応と思う米軍の力が大きかった。自衛隊がなかったらと思うとぞっとする。
- ・ 被災者の方々には申し訳ないですが、今回起こったすべての事象を残しておくべきだと思います。特に現存する映像(特に生の声)に関しては、今後の教訓とする為にも保存し、且つ定期的にそれを発信するべきだと思います。今回起こったプラス面での事象として“絆”があると思います。その気持ちを忘れない為にも、定期的な発信はするべきだと思います。
- ・ 実際に現地におとずれた方々の体験談。今回、このフォーラムに参加し、普段メディア等で耳にしている情報があくまでも客観的で血のかよわないものなんだと感じました。こういった体験談を未来に残すことで同じ悲劇をくり返さないことにつながっていくのだと思います。